

Q

27

子宮内細菌叢検査は 不妊症の治療に有効でしょうか

A

この検査は、不妊症の原因として慢性子宮内膜炎が疑われる場合に行われます。子宮内細菌叢と妊娠の関係はまだわかっていませんが、ラクトバチルス属(乳酸菌の一種)が多い場合は子宮内細菌叢が良好な状態と考えられています。

9章

反復着床不全について

子宮内細菌叢(子宮内フローラ)

細菌は病気の原因となるだけでなく、私たちの体内で細菌叢(フローラ)を形成し、健康を維持する役割を担っていると考えられています。近年、腸内細菌叢(腸内フローラ)が広く知られるようになりましたが、細菌叢は腸以外にも、皮膚、口腔内、腔内で確認されています。以前、子宮は無菌状態だと考えられていましたが、科学技術が発達したことで子宮内にも細菌叢があることがわかってきました。人の細菌叢を構成する細菌は、決まった臓器に存在するため「常在細菌叢」と呼ばれ、免疫などの健康を保つために重要な役割を果たしているといわれています。

子宮内細菌叢検査は、子宮内に金属製の匙やプラスチック製の細い吸引器具を入れ、子宮内膜の細胞や子宮内腔の液体を採取して行われます。採取した検体に含まれる細菌を調べて、細菌叢を構成する細菌の種類、異常の有無などを確認します。

検査後の治療

不妊症や婦人科疾患と子宮内細菌叢との関係については、まだすべてが明らかになっていません。しかし、乳酸菌の一種であるラクトバチルス属が多い子宮内細菌叢が良好な状態だと考えられています。不妊治療を受けている患者さんの子宮内細菌叢を調べたところ、ラクトバチルス属が90%以上の患者さんは、90%未満の患者さんと比べて着床率、妊娠率、出生率などが良好であったという報告があります。

子宮内細菌叢のラクトバチルス属が少ない場合は、抗菌薬や乳酸菌製剤などにより子宮内細菌叢を改善する試みがなされていますが、明らかに有効とされる治療法はまだありません。現段階では、子宮内細菌叢と妊娠の関係には不明な点が多く、今後さらなる研究が必要な状況となっています。

【参照生殖医療ガイドライン CQ】

CQ30：子宮内細菌叢検査は生殖補助医療の成績向上に有効か？